

紅葉の涸沢アルバム 2016年10月3日~10月6日

涸沢のモミジは、8月の少雨による「夏枯れ」のため「ナナカマドが落葉してしまい」肝心の紅色がなくなって、「黄葉一色」となったというWeb情報や、台風18号の進路も懸念されるなか、途中撤退も覚悟の上で松本行き深夜バスに乗り込んだ。

10月4日（晴れ）松本~大正池~田代池~河童橋~明神池・山のひだや（泊）

今日の上高地は見事な秋晴れで大正池から眺める穂高は、青空に稜線をクッキリと描き出している。木道わきの広葉樹は、わずかに黄ばんでおり、田代湿原はすでに草紅葉であった。西宮では島田さんが、河童橋のライブカメラに映る我々をパソコンに取りこむために、PCを立ち上げて待機してくれているのに、あちらこちらと寄り道し、写真を撮ったり休んだりして1時間以上もお待たせして、カメラの向こうの島田さんに手を振っているところを鮮やかに収録してもらった。



河童橋で大休止したあと、梓川右岸を探勝しながら明神池畔「山のひだや」に投宿する。夕食まで時間がたっぷりあったので宿の付近を散策した。

10月5日（晴れ夕方から嵐）明神池~徳沢園~横尾~涸沢小屋（泊）

朝食が7時とゆっくり。8時頃の出発となった。今日は普通約6時間の行程だが、我々の足では9時間かかるとみて計画をした。徳沢園のペランダで前穂高岳東面の岩壁を背景にコーヒーを味わい、横尾で今日一日の天気を確認し、本谷橋で昼休み。天気が荒れる前に涸沢小屋にもぐり込みたい思いより休憩が優先してしまふ。本谷橋から急な上りを喘ぎながら登って、傾斜が緩やかになり、低木がふえ、ようやく周りの景色がみえてきた。



涸沢小屋の屋根が、見えるようになったところからバラバラと降りだした雨が、小屋に着いたとたんザーという音と共に激しくなった。自家発電が停まる9時近くになって、突風がドーンと当たって小屋を揺さぶり、続いて激しい雨が周期的に襲ってくるようになった。台風は夜半に能登半島沖を通過する予報。あすは台風一過、秋晴れとなれば三日続きの晴天となる。こんな幸運は滅多にないことだと思った。

10月6日（晴れ）涸沢小屋~横尾~徳沢園（昼食）~上高地BC~新島々~松本・名古屋・新大阪

「ものすごいモルゲンロートだ」宮脇さんが興奮している。涸沢は真っ赤に染まっていた。これが今年の「涸沢の紅葉」ということか。



涸沢小屋の朝は早い。5時半ごろから食堂で朝食が始まる。風が止むのを待って穂高岳に登るといふ彼女たちに見送られて下山を開始。本谷橋まで下ってホッと一休み。

昨夜の風で二抱えもありそうな大木がバキンと折れて、道を塞いでおり、下を潜ったり、う回路を通るなど思わぬアルバイトを強いられた。徳沢園で山菜そばの昼メシ。予定より1時間はかり先行しているが、明神館辺りから「急げ！急げ！」となって河童橋到着は13時30分。いろいろあったが天候に恵まれ無事下山できた。

ワイドビュー信濃の時間待ちの間、駅ビルでまたまた信州そば。新大阪帰着は、20時03分であった。